

不可能と知りつゝも、或はこの頼りない望みで、度々書面を出して見たが、もとより何の返事もない。露都の惨憺たる状態を聞きたびに、いつも我が老先生の安否を氣遣つて今日に至つた。健やかで居らるれば今は八十二歳餘の高齡である。視力愈々去り、白髪愈々白きを加へても、生涯の望として居られた辭書は完成せられたことであらう。

案じながらも先生の健在を信じて居つた自分を驚かしたのは、近く友人某氏から届いた消息である。「昨年十月下旬もしくは十一月上旬のことと思ふが、ハルビンのノーヴォスチ・ジーズニといふ新聞に、此の頃ペトログラードに於ては知識階級の間にある食物の缺乏其の極に達し、アカデーミックのラードロフ老教授の如きは身體が持ちこたへられず、其の爲遂に逝去されたといふ意味が見えて居つた」と書いてある。あまりのことに自分は茫然たらざるを得なかつた。歐米諸國の學術雜誌にもまだかゝる報導は見えて居ないが、しかし聞くがまゝの露都の状態であるならば、或はこのハルビンの新聞記事は眞實の通報であつたかも知れない。八十餘歳の一生をたゞ學問の爲に捧げ、辛酸困苦を重ねて前人未發の境域を拓くに至つた大學者に、最後の恩賞として餓死を與へるとは、餘りに慘酷な筋書ではあるまいか。自分は遠からず正確な報導を得て、此の悲劇が一篇架空の脚色に過ぎなかつたことを辯じ得る日の至らむことを切望する。

篇中の書名については印刷の都合上すべて原名を省略した、他日改めて詳細に報告する時があらう。

(藝文第十年第七號、大正八年六月十八日)